

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化推進協議会企画委員会 議事要旨

- 1 日時 令和6年3月22日
- 2 場所 ラッセホール5階 ハイビスカス会議室（オンライン併用）
- 3 出席者 企画委員、大阪湾バイエリアに所在する兵庫県各市、企業
- 4 主な意見 ※開会挨拶、資料説明については、省略するとともに、
発言内容は一部要約しております。

<令和5年度取組実績>

- ・令和5年度はコロナが明けて、観光が復興し、宿泊も顕著に戻ってきた。このタイミングで神戸ウォーターフロント等、新たな取組が目に見える形で進捗し、来年万博を見据えると、非常によい。
- ・プロジェクトを地図上に列記することで充実感を感じる。委員会における現地視察を通じて、市町・民間の取り組みの温度感やバイエリアのポテンシャルの高さを感じた。
- ・一方で今回のプロジェクトの進捗状況を見ると、各市や県の事業が並んでおり、民間事業が少ない。本来このバイエリア活性化推進協議会は官民連携プラットフォームであることを再認識したうえで、ポートタワーリニューアル等民間が主導するプロジェクトについても記載すべき。
- ・ひょうご楽市・楽座について、現時点ではイメージがまだ湧かない。コンセプトを具体化してイメージできるようにすれば意見も出てくる。
- ・フェニックス事業用地の活用に対して、サウンディングをしたが、行政と民間のリーシングに関する意見にギャップがあった。目標や思いは分かるが現実的にできること、できないこと等懸念がある。

<基本方針>

- ・目指す姿として、国際レベルの競争力を高めていくことが大事。足下では観光集客と交通に特化したプロジェクトが並んでいる。これらを通じていかに新しい投資を呼び込むか、国際レベルでの競争力を向上するのかを検討すべき。具体的には MOBA リンク構想のように横連携できる施策を県で検討すべき。
- ・志を掲げる意味でベンチマークの設定も必要。淡路島はアジア圏でも上位の都市近郊リゾートになりうると思う。現在の書き方だと、足元の環境整備とあり、世界一・アジアで1番など高みを目指すとなっていない。
- ・この手の構想はプロジェクト集になる傾向ある。この先どのように変わっていきたいかについて、官民で目線あわせをしていく必要がある。ただ、兵庫県だけで進めるのではなく、各市と意見を合わせながらリバイズしていき、足並みを合わせていく。そして、民間事業者にも参画してもらい、内容を見たとうえで意見を出して頂くことが重要。
何となくいい感じのプロジェクト集に留まるのではなく、ゴール感を共有頂き、民間事業者が乗りやすくなる将来ビジョンを提示していきたい。
- ・今年1年、現地視察や委員の方々などとも意見交換を行ってきたが、令和6年度は具体的にワーキングチームで動いていく時期と思う。
- ・デジタル化が遅れている。海外では現金が使えない店舗もある。その動きは加速化していく。ベ

イエリアのDX化もキャッチアップ型で検討していくべき。

- ・万博向けの商品展開について今年度より進めていくこととなる。2025年の補助事業については早めに情報提供頂くことで商品展開へ繋げていくことが出来る。
- ・現在は万博を目指して実施していることも多いが、万博後を考えることは地域の持続可能性を目指すうえでも重要。我々のミッションは万博に向けて大きなことを成し遂げるわけではなく、その後の発展である。そのために民間事業者としての意見を行政にも伝えていきたい。

<広域プロジェクト>

- ・人の流れを予測するなど点と点をつなぎ線や面にしていく意識付けが必要。
外国人の方が来たとして、どのように行き来するのか。東京来訪ベースだと首都圏からどのように来て、どう動くかの予測をして、仮説を立てることを次年度実施するべき。仮説を立てて検証することで、点と点の弱いつながりが見えてきて、それに対する交通の対策なども考えやすくなる。
- ・ポートタワーを来月オープン予定だが、集客が課題。如何に単体で素晴らしい施設を作ったとしても、1度見るとしばらくは再訪が見込めないため、点の強みだけでは持続可能性が難しい。
- ・阪神-神戸間広域プロジェクトには課題がある。阪神間は大工業地帯があり、産業集積していることから、実現するにあたってはある程度、工業・物流を控えるエリアにし、エンターテイメント、レジャー、住宅、ホテルのエリアにするという決意を各自治体レベルで住民と合意形成を図りながら実施し、都市計画を誘導する必要がある。そうしなければ、ディベロッパーなどは参画しづらいと想定される。
- ・ウェルネスが滞在テーマとなる構想は日本全国、世界に多数存在している。淡路では他とは少し異なる滞在が出来ることを語らなければならない。その点、淡路は美食を特化すれば、十分にアピールできる。他とは違うという点では尼崎の環境に対する取組も十分な競争力を発揮して行けると感じる。
- ・京都、大阪に次々と5つ星ホテルが建設される中、ラグジュアリーホテル誘致の検討は観光業界にとっても間違いなくプラスに働く素材であるので、積極的に関わっていきたい。
- ・神戸への来訪者について、神戸空港だけが窓口ではない。羽田空港や成田空港から入って、新幹線で来るパターンや大阪・京都を経由して来るパターンもあることから、如何に神戸空港から西へ展開していくかが重要と考えている。

<地元住民を意識した検討>

- ・当事者目線で物事を考えていく必要がある。観光振興を考える際に観光客だけではなく、市民も巻き込んでいく必要があるのではと考えている。
- ・インバウンドの受入環境整備は必要だが、中でも住民の歓迎ムードの醸成が大切
地元住民の機運を高めることで、日本らしさ、日本の良さを外国人に体験して頂ける。
- ・インバウンドには様々なニーズがある。大きなプロジェクトも重要ではあるが、大きなモノだけで訴求するのではなく、地元の方々が教える美味しいものみたいに、地域の方々がウェルカムに受け入れられるよう行政、民間も考えていかなければならない。
- ・インフラ整備や仕掛けについてはネタが豊富にあると感じた。それは地域のポテンシャルがあるからだと思う。一方で、担い手の育成のネタもセットで考えていく必要がある。仕掛けだけでは

なく、受け入れ手も合わせて考えると同時に、産業を超えて兼業や副業等の担い手育成も重要でないかと思っている。担い手不足はどの分野においても抱えている課題。

- ・観光となるとインバウンドを重視しがちであったが、昨年 12 月のポートタワー再点灯の際に、市民の方々から「すごく楽しみにしていました」等のお声がけを頂いた。その経験から、これらの事業は市民あってのものであり、市民の皆様が喜ぶような地域作りから始めることの重要性を痛感している。
- ・重要なことは、観光事業と市民の共存であるが、現在の構想では住民の姿が見えてこない。これらの観光事業を行うことにより、如何に住民がウェルビーイングな暮らしが出来るのか。京都のオーバーツーリズム問題では、もともと住民が楽しんでいた界限や生活空間に外国人の観光客がたくさん来て、地元住民が迷惑したという事例もある。基本的には住民の方々、淡路で過ごす時間が非常にいいものであると思わなければならない。兵庫県民のウェルビーイングが大前提。そこに観光客を取り込むという考えが重要。
- ・人を呼び込んでも、受け入れられない地域もあり、そこがボトルネックになるとも感じている。観光公害、オーバーツーリズム等、これらを起こさないためのコントロールも重要な課題。

<プロモーション>

- ・コロナが明け、賃上げ、株価上昇等少しずつ景気の上向きを感じる。肌感覚だが、情報番組等で海外ロケによるツアー旅行のプロモーションも目にするようになった。
- ・そうした中で、淡路島はちょっと前から関西では注目されているが、日本全体や海外に対してどれだけ発信できているか。万博を契機にどれだけ訴求できるか戦略的にすすめていけるかが重要。
- ・淡路のフィールドパビリオンコンテンツである土のミュージアム SHIDO も訪問したが、土壁の材料を使った施設など日本でも珍しいが、意外と民間も行政も発信していない。新神戸にある竹中大工道具館もインバウンドの来訪が多いにも関わらず、あまり神戸のパンフレットで取り上げられていないなど、気づいていない小さなコンテンツへの気づき、磨き上げ、発信までできるとインバウンド誘客が進むのではないかと考えている。
- ・阪神-神戸間、淡路-神戸間広域プロジェクトについて、打ち出しとしてはありだが全国的に同様の動きがある。プロモーションが多様化している中で打ち出し方、見せ方によりずいぶん変わってくる。現在はちょっとしたことが世界へと広がっていく時代なので、今後は見せ方の部分に真剣にウエイトを置いてもいいのでは。
- ・アクセスの利便性について、意外な場所へ足を運ぶ人もいるため、インバウンドに対してそこまで影響はないこともある。まずは、認知度が重要だ。どの層にどのようにリーチしていくか。京都・大阪では客単価がかなり上がってオーバーツーリズム的になってきている。そこを逆に神戸で滞在すればゆったりできるなど打ち出したい、ペットフレンドリーなど他地域の差別化していけばよいと思う。
- ・外国人は海外の OTA（オンライン旅行代理店）を通じて予約することが多い。OTA 上に数多くの広告を打つことで海外の人が行ってみたいとなるそう。個々の事業者の取組として OTA を活用するにしても点だけでは大きな広がりにならないので、横つながりについて行政の支援が必要。
- ・共通して取り組むべきは、世代間交流の創出と地域内におけるターゲティング、インバウンドの誘客に伴う交流人口の増加。今後の投資については、万博の状況、経済の状況、人口推移、ターゲットの状況などを見ながら議論していけば、関西をリードできる事例になるのではとってお

り、方向づけとして適切な選定ができたと考えている。

- ・大阪湾ベイエリア、阪神間、淡路島にはコンテンツが揃ってきた印象。だが、このエリアを皆さんどのように呼ぶかの呼称が定まっていない。このままではアセットが分散していく可能性があり、将来的には1つに集約する意味も込めてブランド価値を高めていくアセットを検討する必要がある。
- ・昨年度もロゴ作成の話があったが、それを使用するような取り組みをすることで前に進めていくということも一つだ。
- ・広域の人の流れやプロモーションは共同でやっていくことが重要。横連携は是非ともやって頂きたい。
- ・万博を契機として検討しているが、先日教育旅行のセールスでタイに行き、高校の校長先生向けの説明会を行ったが、万博についてあまり知られていなかった。日本への教育旅行への関心は高かったものの、万博に関して情報が出回っていない。国内の教育旅行のセールスも行っているが、万博を目的とする教育旅行への意見が少ない。
- ・海外、国内問わず万博協会に対して、情報発信を行うよう兵庫県より要請して頂きたいし、兵庫県としても万博の発信を行っていきべきだと感じている。

<各市からの補足、トピック>

(神戸市)

- ・神戸空港の国際化に向けて、2025年のチャーター便就航、2030年の定期便就航を控えているが、観光客だけではなく国際都市としてビジネス客にも来ていただくために、近隣各市と連携して検討していきたい。
- ・須磨シーワールドのシャチやアリーナの開業によって、新たな人の呼び込みができると考えている。これらの活用について皆さまと考えていきたい。

(芦屋市)

- ・具体美術は芦屋市が発祥の地で具体美術協会の結成70年のタイミング。次年度はコレクションを持っている美術館が共同して面的な展示会を開催予定。外国人にとって具体美術は大変興味深いコンテンツでもあり、これを機に更に関心を高めていければと思う。
- ・マリンスポーツは、県立海洋体育館の取り組みに参画。知名度の向上が課題となっているので、隣接している芦屋海浜公園水泳プールなども協力して紹介し合える取り組みができればと思う。

(西宮市)

- ・当市では環境学習に力を入れている。MOBAリンク構想のような配慮した取組を進めて頂きたい。

(洲本市)

- ・今年度は商船三井の大型クルーズ船を誘致。御食国として淡路の特産品を振る舞った。来年度も商船三井と連携し、誘致していきたい。

(南あわじ市)

- ・徳島空港からのアクセスバスの実証運行を実施し、首都圏からの誘客に取り組み、次年度以降も実施予定。合わせて大鳴門橋周辺の誘客について、「うずまちテラス」が「兵庫県で人気の道の駅」ランキングにおいて同年6月から今月まで1位を獲得するなど好評。
- ・淡路-神戸間広域プロジェクトの推進にあたっては、なぜ淡路島の食材がおいしいのか等淡路の食を語るガイドの養成を進めており、来年度も進める。

(尼崎市)

- ・環境への取組について、当市は環境省の脱炭素先行地域に選ばれた。阪神タイガース2軍の球場移転先としての、ゼロカーボンベースボールパークを令和7年2月のオープンに向けて進めている。
- ・脱炭素の取り組み発信について、オープンファクトリーとして工場見学のような取り組みをモデル的に着手。
- ・万博時には会場外駐車場隣接地におけるひょうご楽市・楽座実施への協力、万博以降は新産業の誘致を見据えながら企業の支援を検討。

以上